

「はる、なつ、あき、ふゆ」

湯ノ浦 ユウ

「はる」はぼかぼか。

暖かい風が心地よくて、外に出るのも気分はルンルン。
軽い気持ちで、軽い服装で外に出られる。

今年の春は綺麗な桜の下で君と一緒にお花見をしたよね。

また来年もしたいなあ。

頭のとっぺんから足の先までぼかぼか、ぼかぼか。

優しい風に包まれて気分はうとうととしてくるね。

春の木漏れ日の中うたた寝するのはすごく気持ち良いんだ。

「なつ」はギラギラ。

太陽の暑さに負けそうになるけど、その半面楽しいことも沢山。
夏といえば私は山のイメージだな。

山に行つて川魚の釣りをしたりバーベキューしたりさ。

あとは夏の夕立とか好きなんだよね。

夏独特の雨の匂いが好きで、今でもよく雨の中散歩したりする。多分だけど土が濡れた時の匂いなんだと思う。

そこはカラッと晴れた日とは別世界で、ワクワクせずにはいられない。

光と影の対極の世界にいつの間にか入ってしまう。

これだから夏は外に出ずにはいられない。

「あき」はそよそよ。

風も少しづつ冷たくなってくる。

木々も色を深めていく。

赤に黄色と様々な色で染められていく。

少し寂しくて儚げに感じてしまうけど、それも忘れてしまうくらいやっぱ綺麗だ。

紅葉の下で君と一緒に読書ばかりしていたね。

インドア派の君が外に出てくれたので嬉しかった。

「ふゆ」はぬくぬく。

寒いのは苦手なので手袋とかマフラーが大好き。

もちろん外に出るときには欠かせない。

カイロなんかがあつたら最高、もう言うことない。

でも寒くても雪なんかは好きなんだよね。

雪合戦もスキーも好きだし、私は君と違ってアウトドア派なのかもしれないな。

でもやっぱり寒さにはどうしても勝てなくて、結局、こたつでみかんに落ち着く。

今もこたつでぬくぬくしている。

君もすぐ横にいてくれてすごくあつたかい。

それだけで安心できる。

「お前、こたつ好きだよなー」

「寒いのは苦手だからね」

「それにしたって随分幸せそうにしてたからさ」

「私そんな顔してたかな!？」

焦って聞き返すと、

「してたよ。いつもの二倍ぐらいはしてた」

なんだか急に恥ずかしくなってしまった。

私はこたつ布団に顔をうずめて、赤くなった顔を隠した。

何でそういうこと言うかな。

その場に居られなくなった私は、立ち上がり台所へと向かう。

「おい、どこ行くんだ？」

「年越しそばの準備！」

私が少し大きめの声で言うと、「そっか」とだけ返事が聞こえてきた。

私が準備に取りかかると、今年一年の出来事が頭の中をめぐり始めた。

もうすぐ今年も終わる。

今年も色んな事があった楽しかったな。

「はる」も「なつ」も「あき」も「ふゆ」もいっぱい楽しいことをした。

巡り巡ってまた来年も会える。

またそのときまで。

除夜の鐘が鳴り響き、年の終わりと新しい年の始まりの合図を告げる。

きつと今年も君と一緒に入れる。

それだけで私は幸せだと胸を張って言えます。
